

## 岩手県野田村の支援活動報告書(2011年7月16日)

今回は出発時にバスが早く到着し、欠席者が多いことを把握していなかったため、参加者をおいてきてしまったのではないかと事務局一同、一瞬ひやりとした出発となりました。

欠席者が多いとはいえ、学生18名、市民19名、教員1名の計38名(男性20名、女性18名)で、バスには人がいっぱいでした。初参加の方が全体の1/3程いることが分かったら、自己紹介の際に市民の方が「分からないことがあったら何でも聞いてください。」「あまり頑張りすぎずにいきましょう。」などの言葉をかけて下さいました。初参加の方も何度も来ている方もこの頼もしい一言に緊張をほぐすことが出来たのではないのでしょうか。

作業内容は、土岐先生・三上さんとの別行動だった日野口さんを除く37名全員で林の中の瓦礫撤去でした。ひとまず3班に分けてみたものの、今まで大人数で1か所を作業することがなかったため、始めは指示も作業もたどたどしかったです。現場は前日の雨でぬかるみ、ヘドロにまみれ、腐敗臭が充満していました。今までの「暑い」、「きつい」に加えて「汚い」、「臭い」が伴い、体力だけでなく精神的にも滅入ってしまいました。また海風があり感じていかなかったのですが、阿保さんが持っていらっしゃった湿温度計によるとこの日の気温は32℃、湿度は50%を超えていました。しかし皆で声を掛け合い、こまめに休憩をとり、水分補給も各自で何度もとるよう齋藤くんから指示があったこと、阿保さんが持ってきて下さった梅干しと塩飴のおかげで熱中症などによる体調不良の人を出すことはありませんでした。途中から八幡平、葛巻のボランティア団体も加わり50名以上で瓦礫撤去に臨みました。ぬかるんだ地面からはコンクリートやガードレール、海に近い現場だったため漁業用の網や浮きなどが出てきました。重い物は皆で力を合わせて運び、終わりの見えない地面のヘドロ取りも1人1人コツコツと行うことで、徐々に片付いていく現場に皆さん達成感を感じていたようです。



道の駅おおのでの集合写真



大人数で林の中の瓦礫撤去

お昼に愛情のこもったお弁当をいただきエネルギーを充電した午後の作業は、午前中雲に隠れていた太陽が顔を出し、気温も上昇してきました。午前中以上に水分補給、休憩に気を配り作業を続けました。途中冷蔵庫を発見しました。中からは腐った食べ物とハエがわき出てきました。腐敗臭の根源を発見した皆さんは苦い顔で見つめていました。



#### **ガードレールを皆で力を合わせて運ぶ**

#### **冷蔵庫発見**

帰りのバスで感想を伺うと、初参加の方は「震災から4カ月。復興は進んでいるだろうと思っていたがまだまだだと痛感した。また参加したい。」との声が多くありました。メディアでの報道が減ってきている中でも、「現地ではまだまだ長期的な支援が必要」と直に感じることは大事だと改めて思いました。一方で、小規模ではありますが神社で朝市が行われていました。前回畑作業をしたお宅を高橋さん・金子さんが訪ねてみたところ pH が高かった畑に雑草が生えていました。野田村の人も自然も一步一步復興に向かっていることを感じることができました。

また「今日のメンバーは最高だった。またこのメンバーでやりたい！」との声がありました。使った道具を皆で率先して洗う「ボランティアのためのボランティア」精神を持つメンバー同士、気持ちの良い関係を築きあげているのだなと思いました。

担当 (目黒 杏奈)